

改善コース  
**ブラジルと日本**

公共管理国立プログラムの多文化教育による  
公共管理と教育

---

## 第一部 - 論文 2

# ブラジル人民族の成り立ち： 文化の多様性と自然環境

---

Márcia Ferreira - UFMT

Michèle Sato - UFMT

# ブラジル人民族の成り立ち：文化の多様性と自然環境

Márcia Ferreira

Michèle Sato

## Que país é esse 「この国は何だ」？

私達の考えをまとめるテーマは「ブラジル人民族の成り立ち」で、19世紀、国が独立した時から現在までの、ブラジルに関する色々な事について討議を上げられます。

こういう討議は、政治学、社会学、人類学、歴史学、地理学、経済学、文学などの様々な知識の分野お含みます。私達の提案は、この多様な分野の討議をすることでは無く、例えば個人の特性や違いなどの、可能性と問題をあらかず重要な点をいくつか紹介して、ブラジル人の成り立ちについて考えをまとめ、対話を促す事です。

ブラジル人の民族構成に関する新しい知識を築くこのプロセスの出発点は、例えば、1817年から1820年までの期間で、D.Leopoldinaの側近でブラジルを訪れた有名なドイツ人の自然主義者Karl von Martiusの調査から始められます<sup>2</sup>。ヨーロッパから帰国してからも、ミュンヘンに住んでいたvon Martiusはブラジルの歴史的・地理学研究所 - Instituto Histórico e Geográfico Brasileiro (IHGB) - と連絡を保ち、そして、1847年で、その機関が主催していたコンクールで、ブラジル歴史に関するベストテキスト賞を獲得しました(GUIMARÃES, 2000, p. 392)。彼の文章「ブラジルの歴史を書く方法」は、ブラジル人民族の構成研究がブラジルの歴史を理解するカギである事を擁護した(RAMOS; MAIO, 2010, p. 35)。歴史的な文章が主に政治的成果について書かれていた時期に、Karl von Martiusのアイデアは、帝国の構成者達の目的にふさわしい「ブラジルの国家歴史」と正当化されるのは

1 Legião Urbanaというバンドの曲名で、1987年で録音された。歌詞と音楽をこのリンクでご覧になってください：  
<https://www.youtube.com/watch?v=z6uM7FehywQ> (2018年03月13 日でアクセスされました)。

2 Karl von Martiusの簡単な伝記はブラジルの歴史的・地理学研究所 (Brazilian Historical & Geographical Institute) により出版されました：  
<https://ihgb.org.br/perfil/userprofile/KFPVMartius.html> (2018年03月07 日でアクセスされました)。

いったい何なのかを示していました (GUIMARÃES, 2000, p. 406)。

しかし、von Martiusが提案したブラジルの歴史とは、もちろんの事、その頃の支配者達であった者達でいっぱいでした。つまり、物語の主人公達は勇気ある白人のバンデランテに代表され、人口の大多数であった生住民や黒人、そして混血を持ってこの地域に生まれた者達は犠牲にされ、処理されなければならない問題として新国家の歴史を書く過程の中にいました。



### Karl von Martius

“Flora Brasiliensis” のイラストの一つ  
von Martiusのこれとブラジルの植物に関する他の作品は次のサイトで見るすることができます：

<https://ims.com.br/titular-colecao/carl-friedrich-philipp-von-martius/> (2018年03月07日でアクセスされました)。

このイラストに現れる人達がどのように描かれたのか気付きましたか？人間と自然の関係をどのように解説できますか？

von Martiusの提案で私達の注意を引いて、討議の為に興味深いと思う点は、ブラジル地域に住んでいた民族の構成に関する問題に触れる事です。ポルトガルからの独立は最近の出来事で、新国家の歴史を書く必要性がありました。結局のところ、ブラジル人とは何なのか、そして彼らはどのように国の進歩に協力するのでしょうか？

あの頃の歴史的状況と今の状況を見て次の様な質問は出来ていたのだろうか：ブラジル地域に住んでいて、ブラジル国家を形成してくれるのは誰だろうか？ブラジルの独立をしたかった者達は国家計画を持っていたのだろうか？19世紀の終わりの共和党の国家計画は何だったのだろうか？そして今日、討議されている国家計画はあるのだろうか？ブラジルに住んでいて、多様性のある人々はどのようにその国家計画に含まれているだろうか？このいくつかの質問はブラジル人民族の成り立ちと多様性に関する解説の理解を導いてくれるかもしれません。

## Brasil, meu Brasil brasileiro 「ブラジル、我がブラジルのブラジル」<sup>3</sup>

19世紀後半で、多数の作家がブラジル人民族の構成を、「ブラジリダーデ」（ブラジルの特性）の視点で解説しようと努力しました、すなわち、すべての民族と社会層の間に、時間が経っても決して変わることはない文化的遺産の事を書こうとしていました（QUEIROZ, 1989, p. 29-30）。その「ブラジリダーデ」への求めは、あの歴史的瞬間に広がっていた「同質な民こそが国民国家の基礎である」というアイデアによって導かれていました（RAMOS; MAIO, 2010, p. 34）。

その視点で、国で存在する民族の多様な構成は問題として見られる様になりました。結局のところ、生住民、ヨーロッパ、アフリカなどの色んな民族の特性が共存しているこの多様な文化環境であるブラジルで、いったいどうやって「ブラジリダーデ」と呼べる同質な特性を見つけられるのでしょうか？その共存の視点で重要に強調しなければならないのは、違いへの調和的・敬意的痕跡はなかったということです。実際、その全く反対が起きていて、その共存は国のエリート達にはとても悪く見られていて、ブラジルを進行させるような経済的発達と真の国家アイデンティティを作るには邪魔だと見られていました（QUEIROZ, 1989, p. 30）。

Raimundo Nina Rodrigues (1862-1906)、Silvio Romero (1851-1914) と Euclides da Cunha (1866-1909) は、ブラジルはどうやってその多様な文化を持って進行できるのかを議論していた学者たちであります。この作家達は、一般的に、国の遅れが、歴史の中で起きた色んな文化と民族の混ぜ合いのせいだという視点を共有していて、その状況が反転する事は難しいと考えていました。彼らが思うには、ヨーロッパで起きた進行は、同質な西洋文化のアイデンティティのおかげで、その文化に存在していた人々は、「白人で、丁寧で、教育を受けた」人々であったと言います（QUEIROZ, 1989, p.33）。多様な文化と民族が存在する中で、同質を求めていた解釈に人種主

<sup>3</sup> “Aquarela do Brasil”という曲の歌詞の最初の言葉、歌手はAry Barrosoで、1939年に書かれた曲です。詳しい事はこのサイトをご覧ください：[https://pt.wikipedia.org/wiki/Aquarela\\_do\\_Brasil](https://pt.wikipedia.org/wiki/Aquarela_do_Brasil) (2018年03月07日にアクセスされました)。

義と悲観主義が存在していました。

1888年でしか起きなかった奴隷制度の廃止の過程で、この問題は更に悪化していた。それは何故だかという、国民権利を（部分的に）得た黒人の人々は、白人達の社会的地位の維持に関する心配を高めた。研究者Maria Isaura Pereira de Queirozはこう強調します：「エリート達が感じていた危機感は、アフリカ人とその子孫達の数が、ヨーロッパの子孫である者達の数より、圧倒的に大きかったと知っていたからです」（1989, p. 33）。

その恐れはあらゆる種類の差別と偏見の理由となり、そして国中で非白人達が行っていた文化的、政治的兆候への、絶え間ない、拡大しつつある抑圧が、1920年代の始まりまでに、ブラジルの社会的考えを支配しました。その時期に、ブラジル人民族の構成に関する他の解釈が現れ始めた。

## Brasil mostra a tua cara 「ブラジルよその素顔を見せろ」<sup>4</sup>

1920年代の終わりに、Mário de AndradeとOswald de Andradeの作文が姿を現し始める。彼らは親戚ではありませんが、同じ出身地を持っていました、二人共サンパウロ生まれで、Anita Malfattiと一緒に1922年モダンアートウィーク（近代美術週）を主催しました。この「モダニズム」の作家達の作文では、19世紀のブラジリダーデのコンセプトとは異なる概念を定義していた。文化的同質は、錯覚、または虚偽な問題として見られる様になった（QUEIROZ, 1989, p. 34）、それはヨーロッパの先進国ですらその特徴を持っていなかったからです、全ての国が異種な文化とルーツを持った人口で構成されていた。

MárioとOswald de Andradeの主な作品のいくつかの側面についてのコメントを一つ見てみましょう：

4 “Brasil”という曲名の歌詞の一部、Cazuza、Nilo RomeroとGeorge Israelの作曲、1988年でリリース。CazuzaとGal Costaの演奏の一つをご覧ください：<https://www.youtube.com/watch?v=NkNv2BflaSU>（2018年03月07日にアクセスされました）。“Brasil mostra a tua cara”は「1872年から2000年までの人口統計調査におけるブラジル人のイメージ」という研究文章のタイトルでもあります、研究者はJane Souto de Oliveiraで、IBGEによって、2001年で出版されました。次のサイトでアクセス可能：<https://biblioteca.ibge.gov.br/visualizacao/livros/liv2434.pdf>（2018年03月07日にアクセスされました）。

Mário de Andrade (1893-1945) はブラジリダーデを主に「マクナイマ」という作品で定義します、その主人公は、似ている価値観のアフリカ、アボリジニ、ヨーロッパの特徴を同時に持っています。ブラジルの文化のオリジナリティと豊かさは多様なルーツから来ている事を示します。異種な特徴の深い混合は、危険な場所で、文化的遺産を優れた物にする為に必要な事だとみられています。作家と随筆家であるOswald de Andrade (1890-1954)は、「アントロポファジア」という理論を鍛えていた、その理論は異種文化要素の融合がどのように機能しているかを説明します：ブラジルは、文化的に、やってくる他の文明を食らい、新しい物へと変化していく。融合を強制される異種な特徴はそのオリジナリティと美を、新しく出来上がる文化で保証され、そして、その違和感の中で、他の物と調整するよう強制される。その全く異なる結果で、ブラジル文明の特質が見つけれられる (QUEIROZ, 1989, p. 34)。

MárioとOswald de Andradeの作品は、ブラジリダーデの構成の定義に関して補完される。彼らが生きた歴史的瞬間と文化環境は、ブラジル人の民族的起源における多様性に関するこれまでの支配的な考え方に対する根本的な反対を可能にしました。彼らにとっては、ブラジルの歴史で起こっていた文明の混合は国家の進行とその難しさとは全く関係ありませんでした (QUEIROZ, 1989, p. 34)。ブラジル社会で明白だったこの問題らは経済的要因のせいで、決して国家の文化的アイデンティティと関係してはならなかった。



Mário de Andrade の本「マクナイマ」が、2016年からパブリックドメインにいる事を知っていますか？ご覧ください：<http://www.ebc.com.br/cultura/2016/01/macunaima-de-mario-de-andrade-esta-em-dominio-publico-partir-de-2016> (2018年03月17日でアクセスされました)。

Brasiliiana GuitaとJosé Mindlin図書館のコレクションをアクセスして「アントロポファジア」の雑誌を次のサイトで見ることができます：<https://digital.bbm.usp.br/handle/bbm/7064> (2018年03月17日でアクセスされました)。

ブラジル人民族の構成に関する解説の視点変更は少しずつ起こり、変化が起こるにつれて、様々な表現の下で、色んな学者達の作品で、特に1930年代以降、作家達はブラジル文化のアイデンティティを説明しようと努力しました。

しかし、どうやって、そしてどんな理由がブラジル人民族の構成に関する解釈の変化を実行させていたのか私達自身に尋ねることができます。

それについての説明は、20世紀でブラジル社会が経験した深い変化の中で見つけられる：

都市化と工業化の過程が加速し、中産階級が発展し、都市プロレタリアート（賃金労働者階級）が出現した。「モダニズム」が多くの人にとって参考になると考えられるのは、この文化的運動がそれまで社会の中で疎かったという歴史的意識をもたらしたからです。フォックストロットを歌う時、映画館、電信機、飛行機の羽、これらはブラジル社会で起こっていた変化を示していた。30年代の革命ですでに起こりつつあった変化は政治的に指向されていた、それは国家が自身の進行を行おうとしていたからです。その状況の中で、人種主義の理論は時代遅れになり、克服する必要がある、社会的現実には、ブラジルの異なる解釈を押し付けていた (ORTIZ, 2003, p. 40)。

ブラジルの独立から作り上げられたブラジリダーデの理論は、ブラジル人の大多数（黒人、生住民、ハーフ）を否定する事で、進行と経済的発達の可能性は、1930年以降、Vargas政権で、国家がやりたかった事と国の現実に対応しなくなりました。

一方、ブラジルに到着した移民の大流入は、19世紀の終わりから、国家エリート達に脅威となり始めた。それは、経済的豊かな移民者の代表達が、エリート達の子孫と経済・政治的階層の指揮官を競争し始めたからです。「ヨーロッパ人の大規模な移民は、ブラジル出身の者達の権力を脅かす、彼らの文明の特性の認識に気を引き、彼ら自身の遺産と価値への愛着が強調されました」 (QUEIROZ, 1989, p. 38)。

社会は、新しい「ブラジル人」の意味を必要と始めた、ブラジル国家のアイデンティティと資本主義的發展を可能にする大多数の移民労働者達（ヨーロッパ、アジア、中東）を含むような意味を。

## A cara do Brasil 「ブラジルの顔」<sup>5</sup>

Gilberto Freyre (1900-1987) はいわゆる「三種類の神話」の主な建築家の一人と考えられている、その「神話」は新しいブラジル人民族の解釈にとって必要な物になり、ブラジル近代国家の誕生を説明する事ができます。

彼の一番有名な作品「*Casa Grande e Senzala*」（大邸宅と奴隷の家）は、1933年で出版され、ブラジル人民族の構成問題を、ブラジルの社会現実の深い変化の視点で再解釈しました。

社会学者Renato Ortizによると：

寓話、また「三種類の神話」はブラジル社会の深い変化が起こっていった時期に発生した、まさに、奴隷労働に基づいた経済から資本主義に基づいた経済への移行、君主制から共和制の組織へ、そして、例えば労働問題をヨーロッパの移民で解決する時期で（ORTIZ, 2003, p. 38）。

しかし、「三種類の神話」とは何か？それは、現在まで受け継がれたブラジルが「熱帯ジャングルの研究所で融合した三人種の叙事詩」の結果で発生したというアイデア（ORTIZ, 2003, p. 38）。「るつぼブラジル」のイデオロギー、すなわち、ブラジルの地域が研究所のるつぼのようで、高温に非常に強く、その中で異なる民族のルーツと文化が融合される。その融合の結果でブラジル人が誕生した：元となった民族と違う、混ぜ合った民族。

この概念が神話的であることを理解してください、つまり、討議への出発点の提案の為であり、「神話的な歴史が発出する中心である」（ORTIZ, 2003, p. 38）。

<sup>5</sup> Vicente BarretoとCelso Viáfaraの曲名、1999年にリリース。彼らの演奏と歌詞を次のリンクでご覧ください：  
<https://letrasweb.com.br/vicente-barreto/a-cara-do-brasil.html>（2018年03月07日にアクセスされました）



Gilberto Freyreの作品と私達の起源神話との関係は何でしょうか？彼の作品は、この混合がどのように行われたのかをちゃんと説明し、非常に特別な材料を加えました： ハーフがとても良い者だと高揚し、それからハーフは他者と見違える為の資質の持ち主と見られ始め、ブラジルの様に他の民族と国家と違う者として見られ始めた。「*Casa Grande e Senzala*」についてのコメントを一つご覧ください：

この本は、全てを統一するという根本的な資質を持っている： 大邸宅と奴隷の家、家と小屋。だからこそ、この作品は政治的に左派と右派に賞賛される。この本は、未だに自信の定義に苦勞していた人々に間違いのない肯定を可能にする。国家的統一に変化する。ブラジル文化の問題を再活動させる事で、Gilberto Freyreはブラジル人にブラジル人に身分証明書（アイデンティティ）を提供します（ORTIZ, 2003, p. 42）。

Gilberto Freyreの作品は三種族の神話を広めるのに役立ち、そして徐々に、国で常識となるでしょう。ハーフであった者達が、国民として知られる様になる。

ハーフ国家のアイデンティティの形成とブラジル人民族の構成を説明する理論としての同化はブラジルの民主国境の線と紛争をぼやけるのに役立つ。社会学者Renato Ortizによると：「三種族の神話はこの意味では例である、人種的紛争を隠すだけでなく、誰もが国民として自分自身を認識できるようにする」（2003, p. 44）。

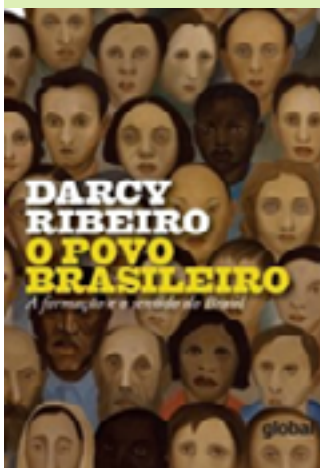
1964年のクーデターを成功させた軍事独裁政権時代には、ブラジル社会に存在する紛争と敵対に関する議論を阻止するために、「異なった」人々の間に「調和のとれた」共存というこの考えが動員された：

この視点の中では、紛争は相違点の概念の中で解決される、それは調和とバランスのとれた社会の存在を前提としています。ハーフ化の概念は、この意味での他のアイデアを包含し、「民主主義」や「自由」などの用語の意味を変装する（ORTIZ, 2003, p. 94）。

「相違点」の概念の理由は、ブラジルがハーフで調和のとれた国だという事を広める為で、国家統一の認識に賛成して矛盾が抑圧されて、統合されバランスの取れた集団に相違点を取り入れることができると見なされ、社会・政治的紛争から自由になりました。

## Povo guerreiro 「強い人々」<sup>6</sup>

1995年で出版された、「O Povo Brasileiro」(ブラジル人)という本で、Darcy Ribeiro (1922-1997)はブラジルに関する解釈で、いわゆる「人種の民主市議」の虚偽を指摘し、「この社会的地層を隔てる深い溝を強調している」(RIBEIRO, 1995, p. 24)。紛争に焦点を当てることは、彼の仕事では際立っており、ブラジルの他の解釈とは異なります。



作品「O Povo Brasileiro」はブラジルで何回も再版されており、左のイラストは出版社Globalに作られ、Tarsila do Amaralの油絵「Os Operários」(労働者)の一部を使っています。

Darcy Ribeiroの作品にインスピレーションされたドキュメンタリーも製作され、そのカバーは右側にあります。

「O Povo Brasileiro」に関する情報は次のリンクのドキュメンタリーをご覧ください：<https://www.revis-taprosaveroarte.com/o-povo-brasileiro-a-formac%C%A7a%CC%83o-e-o-sentido-do-brasil-darcy-ribeiro/> (2018年03月17日でアクセスされました)。



ブラジルの意味と構成の説明では、Darcy Ribeiroは「ニンゲンダーデ」(誰でも無い)の概念を採用した、すなわち、ブラジルで生まれた人たちが自分のアイデンティティを築き上げるために、「誰かになる」ことを促したのです、そうしなければ彼らは、生住民でもなく、黒人でもなく、ヨーロッパ人でもなく、「誰でも」ない事になるでしょう(RIBEIRO, 1995, p. 131)。彼の作品の側面についての解釈を一つ見てみましょう：

<sup>6</sup> Crioloの曲、2018年でリリース。次のリンクで聞いてください：<https://www.youtube.com/watch?v=595vpTIEGVk> (2018年03月17日でアクセスされました)。

Darcyは、ほとんどのラテンアメリカ諸国で生まれた「新しい人々」という概念を擁護しています、その概念は、生住民の非生住民化、黒人の非アフリカ人化、そしてヨーロッパ人の非ヨーロッパ人化の過程の結果で作られました。自身の祖先の民族とは異なったハーフの国。「新しい人間のジャンル」で、「国民形成の凶悪な過程」から生まれ、生住民、アフリカ人、マメルーク、カボクロ、ムラートが、ブラジル人のアイデンティティを求めながら犠牲になり、死んでいった (MIGLIEVICH-RIBEIRO, 2005, p. 15)。

しかし、Darcy Ribeiroにとって、民族的団結は調和や平和共存を意味するものではありませんでした：

その統一は継続的で暴力的な政治統一の過程の結果で生まれ、異なる民族的アイデンティティを抑圧するための意図的な努力と事実上すべての分離主義的傾向の抑圧により達成された。より自由で教官的な社会を構築することを基本的に志向した社会運動も含める。統一への戦いは、これらの条件の下で、社会的および階級的抑圧を強化し、単なる共和党運動でも反寡頭運動でも、分離主義運動として罰せられた (RIBEIRO, 1995, p. 23)。

提案された解釈は、したがって、団結の認識のために紛争を隠すことはありません、逆に「彼らの相互作用、行動、自己知覚、および「他」に対する認識の分析において、それらを強調する」 (MIGLIEVICH-RIBEIRO, 2005, p. 17)。Darcy Ribeiroにとって、ブラジル人民族は世界規模の資本主義的経済システムに統合された事業プロジェクトに提出された過程で構成された、実際、国家アイデンティティの形成にその印を刻めた。彼の言葉では：

ここでは自由な人々は一切なく、自分の繁栄を追い求める運命の支配を手にした事はありませんでした。何が起きているのか、何があるのかは、支配的な少数派によって搾取され、屈辱を受け、怒られている大量の労働者であり、驚くほどに、その少数派は繁栄の計画を策定し、維持し、常に支配的な社会秩序の改革の脅威を打ち砕く準備ができています (RIBEIRO, 1995, p. 446)。

Darcy Ribeiroは、ブラジルで5つの文化的変種、または地域のシナリオを特定しており、それらを「Brasis」と呼んでいます：それが沿岸のクレオール、アマゾンのカボクロ、北東のセルタネージョ、国の中央と南東のカイピラ、そして南のガウーショ、イタロとテウトブラジル人。

複数のブラジル人である方法を研究する際に、Darcy Ribeiroは、広範な一般的シナリオではなく、歴史は「人々が覚えていて、自分のやり方で説明するような地方場面で」起こるという考えを擁護しています（RIBEIRO, 1995, p. 269）。

したがって、ブラジル人の民族的アイデンティティは、基本的な母型とその柔軟性の両方によって説明することができます（RIBEIRO, 1995, p. 272）。Darcy Ribeiroによると、柔軟性は「すべての地域的生態学的変動に対する地域調整」を可能にし（1995, p. 272）その生存とその統一の維持を可能にしました。

## Brasil com s 「Brasilと書く」<sup>7</sup>

グローバリゼーションと文化の国際化は、文化的アイデンティティ、人々、国家の討議に新たな要素をもたらしました。ブラジル人と歴史におけるその役割についての私達の考え方は、国民国家とアイデンティティの関係での現代的な再表現を反映することができます。

今まで占められていた中心的な位置から、国家のアイデンティティは、限界を超えている他のアイデンティティによって左右されている。社会学者 Renato Ortizにとっては（2013, p. 622）：

世界市場、多国籍企業に直面して、問題はもはや国内レベルでのみ定義することはできません。世界は様々な役者が活動している闘技場で、その中で大企業（ソニー、アップル、グーグルなど）、銀行、NGO（グリーンピース、国境なき医師団、人権）、そしてもちろん、国家が活動する。

<sup>7</sup> 歌手João Gilbertoの曲名、1982年で録音。次のリンクでご覧になれます：<https://www.youtube.com/watch?v=YtQfl-3zetNE>（2018年03月17日でアクセスされました）。

この新しい文脈では、国家アイデンティティは抑制されず、「グローバルな」アイデンティティに置き換えられることもなく、それは、グローバル、ローカル、地域的に相互貫入し交差する異種の流れを形成することができます(ORTIZ, 2013, p. 623)。

このような観点からブラジルの文化に焦点を当てると、もはや単数で言及されなくなり、その定義に関わる利害と紛争の分析分野へと移行します。結局のところ、「それがどのように構築され、どのような力の関係があるかを知ることは重要です」(ORTIZ, 2013, p. 626)。

そこから出現する多様性の概念は、「人種民主主義」の考え方に伴う「団結の多様性」から遠ざかる。「人種民主主義」は相違点を抑圧し、平等主義の行使の中で、それらを認識し、評価するという意味で歩むこと：

黒人は人種混合のない黒人として見られるべきであり、生住民はブラジル文化への協力ではなく、彼らの「祖先」の実践でみとめられなければならない。認知は、ブラジル国家でそれを表現する方法を見つける文化的、政治的性質をとっている。自尊心と個人や社会集団の帰属意識は、これらの「違い」に内在する文化的潜在力と同様に価値があります。市民権はキーワードであり、大都市の郊外に住むヒップホップ集団、先住民族、黒人、マラカトゥとブンバ・メウ・ボイの公演に適用されます。文化的表現は、ブラジルがメディアエイターとして働く公共空間において、肯定の形態として認識されている(ORTIZ, 2013, p. 628)。

市民権とインクルージョンは、公共政策だけが市民の権利を保証することができるので、この観点の中心的要素です。

領土境界を越えたこのアイデンティティの概念に直結する問題を考えるとき、生態学的な問題は際立っています。「生態学的問題は国境にまで縮小されるべきではなく、その領土は惑星である」(ORTIZ, 2013, p. 622)。その意味で、次に、気候変動と気候正義について提案します。これについて考えた事がありますか？



Hélio Oiticica (1937-1980)はブラジルのアーティストで、一般市民に感覚的な実験を可能にする、いわゆる「貫通可能の」芸術的施設を作り出した：作品の中に入り、触る事ができます！

この作品「Penetrável da Gal」(Galの貫通可能アート)または「Ninho da Gal」(Galの巣)、歌手Gal Costaの為に1969年にOiticicaによって制作された。

私達がこれまでに議論した事を考えてみると、この作品は貴方に何を示唆していますか？ どのように解釈することができますか？

撮影Fabiane de Paula、2016年03月10日、Diário do Nordesteで出版。次のリンクでご覧になれます：<http://diariodo-nordeste.verdesmares.com.br/cadernos/caderno-3/a-suprassensacao-de-helio-oiticica-1.1507254> (2018年03月20日でアクセスされました)。

## Cio da Terra (土地の熱中)<sup>8</sup>

木は単なる木ではありません。自然は文化の前ではなく、各民族の歴史から独立しています。各樹木、各川、各石には何世紀にもわたって記憶が刻まれています。(SCHAMA, 1996, p.70)。



### CANDIDO PORTINARI

綿の収穫、1948年

木材での油絵、42 x 50 cm

<http://www.portinari.org.br/>

### 美術-教育-環境

基本教育の先生達と美術を通じて子供を教育したい親達へ、Candido Portinariのイラストノートは、文化と自然について良い内容をくれるでしょう：

[https://www.ifsc.usp.br/portinari/images/PDF/Exposicao\\_Portinari\\_Arte\\_e\\_Meio\\_Ambiente.pdf](https://www.ifsc.usp.br/portinari/images/PDF/Exposicao_Portinari_Arte_e_Meio_Ambiente.pdf)

<sup>8</sup> *Cio da terra* (1977) はMilton NascimentoとChico Buarqueの曲で、農業作業への敬意から生まれ、綿花の収穫をしていた女性達の歌声からインスピレーションされています。<http://armazemdetexto.blogspot.com.br/2017/11/musica-o-cio-da-terra-milton.html>

文化には、綿花収穫の Candido Portinariによる絵と同様に、Milton NascimentoとChico Buarqueによるブラジルのポピュラー音楽Cio da terraの構成を刺激する農作業など、多面的な次元があります。ブラジルのより現代的な社会運動に、そしてアントロポファジア運動の期限に沿って歩き、ブラジルと呼ばれる領土は、ブラジル人を一定の不変のパラメーターに「フィッティング」する実証主義な現象に対して、抑止力を求めます。文化はダイナミックであり、変化をもたらし、その流れは伝統的な民族学的特徴の閉鎖されたトラップに適合しません。

**あなたは自然の要素をもたらす音楽を知っていますか？ 環境と「話す」曲の部分を指定してください。**

文化は常に自然と相互作用し、記憶は私たちの文化に従って自然を解釈します。現象の解釈において、記憶は過去を探索し、感覚に意味を付け、文化と自然の間のこの対話を取ります。私たちは常に草原の花、牧場の家、グアバの盗難、または川でのダイビングの場所を思い出すことはある訳ではありません。都市の人々はこれらの風景から離れ、幼年期を過ごす事もあります。その風景は自然だけではありませんが、シンボルやマークを掲げ、そして美しい画像とは限りません。私たちは私たちの生活の風景を変えます。私たちは世界の風景を変えます。科学的研究は、私たちが気候変動の時代にいる事を示して、自然だけでなく文化の世界にも本質的に関連する大規模な災害を発表しています。

あなたが住んでいる場所で、「川」、「森林」、「焚火」、さらには「雲」のための場所があるかどうか想像してください。その場所らは文化から隔離されてますか？水を川から持ち込む蛇口はありますか？木製の家具はありますか？貴方に一日分のエネルギーをくれる料理を調理するコンロはありますか？暑い日には扇風機やエアコンが必要ですか？あなたの存在での日々生活の中で自然とのつながりを感じますか？

ずっと前に、フランスの哲学者Gaston Bachelardは、人間の想像上の現象を理解するために、アーキタイプ<sup>9</sup>（元型）として四つの元素を使用しました。彼によると、水は全ての源、例えば母親の子宮の水袋や地球上で命をもたらした有機的スープ。それは、変形、変容、改革を意味する形成過程において、学習の初期の印です（BACHELARD, 1985）。土は迷路、仕事、休息の比喻です。 普段誰も入りたくない迷路で、私達は精一杯頑張っで脱出します。だから、Bachelardにとって、目標は混乱を恐れることでは無く、自分の間違いで学ばなければなりません。火は愛、力、性的の隠喩、誰もが火傷すると知っている元素ですが、誰も否定することはできません。それは転換点で、他の道を生み出す変容の燃焼。最後に、空気は自由、飛行、その他全てに触れる元素です。 夢の解釈の軽さを与えてくれる創造的な想像力です。

これらの元素の中には「水」と関連した変化があります。温度の上昇に伴い解凍に関する研究が激しく、氷河が劇的に急速に溶けています。海面上昇が起こり、日本、オランダ、イングランドなどの国々は沿岸地域の消滅で、厳しく処罰される。「土」の災害では、表面を飲み込むことから生ずる巨大な穴、地震、地すべり、砂漠化など、その他の事例の中でも大きな悲劇が現れます。「火」の災害に関しては、地震や、大嵐の落雷、都市の場合は、電線からの火事のせいで火災が発生します。現在活動していない火山のほとんどは、噴火して悪夢を引き起こす可能性があります。これらの現象はハリケーン、竜巻、暴風、流行などで「空気」に触れ、すでに起きているウイルス、細菌、真菌、原生動物などの病気のように、特定の領域から逃げて流行に陥ることがあります。例えば、スペインのインフルエンザ、エイズ、エボラの場合。

この4つの元素の隠喩を使って、各気象事象に対応する元素に「x」を付けてください。各イベントは、地震プレートの地震に起因する大きな波である「津波」の場合のように、複数の元素に関連する可能性があります。

<sup>9</sup> アーキタイプの意味を辞書で調べてください。 星占いは好きですか？ 提示された12のアーキタイプのうち、あなたは何座ですか？



## Bachelardと災害の元素

	水	土	火	空気
洪水				
溶ける氷河				
津波				
嵐				
ハリケーンと竜巻				
窓屋				
温度上昇（温室効果）				
二酸化炭素排出量の増加				
吹雪				
雪崩				
乾燥塊の摺動				
地震				
穴 - シンクホール				
砂漠化と干ばつ				
火災				
火山				
伝染病 - ウイルス、細菌、原生動物および菌類				



### 神奈川沖浪裏

葛飾北斎、1830年。

BBCは、神奈川沖浪裏が世界で最も再現された絵であると報告しています。おそらく、絵画が描かれた数年後も、様々な美術家がこの絵を充当したであろう。現在、気候変動によって引き起こされる “津波”の増加のため、この絵は非常に人気になっております。

<http://www.bbc.com/portuguese/general-41055922>

## Gente humilde 「謙虚な人々」<sup>10</sup>

### DESTRUIÇÃO 「破壊」 (1969)

命対命：  
不毛の残酷の  
消費される光  
エッセンスを崩壊させる  
役に立ちず。  
Orides Fontela



#### TARSILA DO AMARAL

「労働者」、1933年  
油絵、150 x 205 cm  
<http://tarsiladoamaral.com.br/>

#### 美術-教育-環境

Tarsila do Amaralの作品を通じてブラジルの歴史の教訓提案：

<https://novaescola.org.br/conteudo/1063/tem-muitas-historias-do-brasil-nas-telas-de-tarsila-do-amaral>

私たちは、気候変動の影響が劇的であり、すべての人類に影響を及ぼしますが、異なる形態と割合で影響を受けることを認識しています。脆弱な状況にある社会集団、特に経済的に恵まれない人々が、災害や気候変動の影響を最も受けることは間違いありません。生態学的保護と責任ある経済による、社会的包含を促進しようとする倫理的運動は、「気候正義」と称されている。この国際的な動きは、研究の焦点を超え、教育とコミュニケーション過程を結びつけることで、科学は、社会環境的紛争や人権侵害に対処するためにまだ準備ができていないブラジル社会での社会的妥当性と聴衆を持つことができます。

Sato (2016) は、気候変動の劇的な影響は、経済的に恵まれない人々、貧しい周辺に住んでいる人、歴史の余裕を持っていない人、競争力があり、依然として人間の幸福の目標として経済成長のモデルを維持している社会でまともに生きられない人に、不平等で不均等な比率で影響を及ぼす。

<sup>10</sup> 作品「Gente Humilde」(謙虚な人々)はいくつかの著者を持っています。オリジナルバージョンは1945年、Garoto (少年)とあだ名づけられた楽士により作られたと言われていました。ギターの香辛料にはAníbal Sardinhaが付属し、60年代には、Vinícius de MoraesとBaden Powellの声と解釈により現れました。[https://www.academia.edu/32228886/AS\\_VERS%C3%95ES\\_DE\\_GENTE\\_HUMILDE?auto=download](https://www.academia.edu/32228886/AS_VERS%C3%95ES_DE_GENTE_HUMILDE?auto=download)

マトグロッソ州では、脆弱な状況で社会的集団の社会地図を描き、研究の方法論的手順として自称を用いて、これらの集団の領域に存在する社会環境葛藤のタイプを研究した (SATO; SILVA e JABER-SILVA, 2014) <sup>11</sup>。いくつかの先住民、奴隷黒人の子孫、漁師、小規模農家、ジプシー、ホームレス、貧乏人らの集団と、そして、パンタナル、セハードとアマゾンに住んでいるいくつかのグループもあります。一般的に、公的政策から除外されており、保健、交通機関、住宅サービスはほとんどなく、社会的環境の深刻な不法に苦しんでいる。環境事故が発生した場合、これらのグループは最も暴露され、最も影響を受け、最も脆弱な状況にあるグループです。

**あなたが住んでいる場所で脆弱な状況にある社会集団について考えることができますか？ ホームレスの人はいますか？ 移民？ 少数民族グループ？ 彼らには機会均等がありますか？ どのような困難がありますか？ 彼らは気候変動の影響を最も受ける集団ですか？ 彼らを助けることは可能ですか？ どのように？**

社会格差が環境に比例して増大し、人間の次元と気候変動との間の本質的な関係を明らかにする歴史的な瞬間に、世界社会の様々な例と対話する必要性が高まっている事とは否定できない。明らかに、技術は社会の発展を助けることができるが、それらへのアクセスは費用がかかり、さらなる排除を促進するかもしれない。

日本は自然災害に対処する最良の準備国です。経済情勢の中、日本は津波に対して高い壁を築き、耐久性のある地震対応の建築を持ち、印象的な警戒システムとシェルターを備えています。しかし、ろう者、視覚障害者、車椅子利用者、または精神障害者でさえも障害を持つ人々を支援する手段はほとんどありません。

<sup>11</sup> ソーシャル・グループ (Regina Silva) と社会環境紛争 (Michelle Jaber-Silva) に関する2つの教科書ノートはPDFで購入できます：<https://gpeaufmt.blogspot.com.br/p/materiais-e-apoio-pedagogico.html> (2018年03月20日でアクセスされました)。

いくつかの著者が、社会の適応またはレジリエンスを作るプロセスを主張してきたが、(BERKES & JOLLY, 2001; BERKES, COLDING & FOLKE, 2003; ADGER, 2003)、Nobre (2008) は、緩和プロセスは適応よりもはるかに重要であると主張している。なぜなら40年後以降、地球はかなりの温度上昇を起こし、ほとんどの人にとっては遅すぎてしまいます。したがって、それは人々のレジリエンスを促進することだけでなく、資本の覇権に対するレジスタンスの形態を理解することであり、これらの脆弱な社会集団がどのように自分のアイデンティティを維持するのに苦労しているかを考えることが重要である。社会的環境闘争に対する闘いがどのように引き起こされ、気候変動によって引き起こされる暴力に対する、人権と他のすべての形態の防御をどのように保証するかはとても重要です。

気候変動は脅威の乗数として作用し、既存の脆弱性を悪化させる極端なイベントの強度と頻度を増加させる、そして資源の配布と配信を変更します(MILANEZ & FONSECA, 2011)。それらの影響は交差し、他の問題を悪化させる：経済危機、深い社会的不平等、少数の人の過消費、大多数の人の低消費、社会的・環境的・気候的不公正が含まれる。さらに、気候変動の複数の結果は、地球上の生命の劣化とその不安定な影響の点で、複雑性が急速に高まっています(SATO, 2016)。



**DIEGO RIVERA**

農民と産業労働者の同盟、1924年

壁画（新鮮）

<http://totallyhistory.com/diego-rivera-paintings/>

## A cor da esperança (希望の色) <sup>12</sup>

物の重要性は、目盛りや気圧計などで測定されていないこと。  
物の重要性は、物が私たちの中で作り出すエンチャントによって測定されるということです。

Manoel de Barros



### Imara Quadros

自然環境教育、2013年

(イラスト、Sato & Quadros、2013、p. 52)

### 美術-教育-環境

「Grupo Pesquisador em Educação Ambiental, Comunicação e Arte」(環境・コミュニケーション・美術教育の研究グループ)というブログでダウンロードできる本があります。「環境教育のテキストとイメージ」の章を読んで、テキストをイメージに結び付けてください。

<https://gpeaufmt.blogspot.com.br/p/etapas-da-conferencianacional.html>

ブラジル人のほとんどが気候のジレンマを感じることができず、科学者達は必死になっており、災害を研究している多くは社会の未知知りに憤慨していて、今まさに「科学的うつ病」になっています。「Uma verdade inconveniente」(不都合な真実)<sup>13</sup> というドキュメンタリーで、Al Gore氏は気候研究を、アメリカの大統領選への上昇の為の資産と考えていた言いました。しかし、上院は単に彼の雄弁な研究を無視しました。そして人々もまた、アメリカだけでなく、世界的にもそうです。

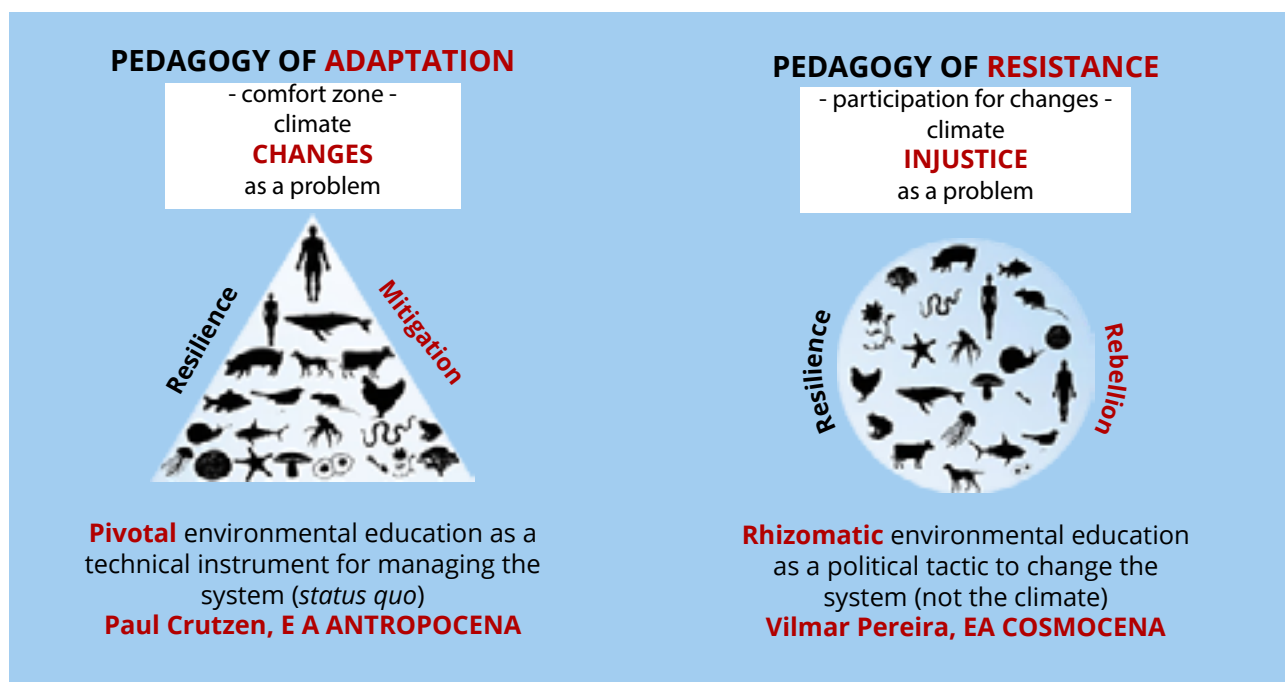
ですから、現在の科学的議題の課題の1つは、生命を脅かすが、誰も見ることのできない、目に見えない空気(気候)であるこれらの現象をどうやって聴衆に与えますか。

<sup>12</sup> Cartolaはブラジルの文化の表出であるサンバの偉大な楽士の一人と考えられています。Roberto Nascimentoと共に、政治的ジレンマに苦しむブラジル人の全員と同様に、彼は曲作りに希望を持っていました。「希望の色」(1979)：  
<http://sambaderaiz.org/albums/cartola-70-anos-1979/>

<sup>13</sup> 次のリンクでご覧になれます：<https://www.algore.com/library/an-inconvenient-truth-dvd> (2018年03月20日でアクセスされました)。

持続可能性の目標を持つ政治的、社会的文化に向けて、人類が責任ある行動を取るために必要な変革を実行するために、公共政策が戦術的な条件を作り出すことは、学者、科学者、教育者にとっての挑戦です(JACOBI et al., 2011)<sup>14</sup>。経済、文化、社会、政治、倫理、美学の多面的な持続可能性。現在の国家は真の革命を要求しており、それは他の価値に基づく新しい文明モデルを求めて突然変異やパラダイムシフトを呼び起こすものです。

実用主義的で実証的な「問題解決」の見解に加入する必要なく、提案されているのは、科学者、研究者、学者が構築する知識を普遍化する事ではありません。目標は、各場所が独自の保護とケアの状態を調べることです。適応に加えて、これらの気候変動を引き起こした発達モデルに抵抗することが必要であろう。レジスタンスは拒絶を意味するものではなく、災害を発生させるシステムを変更しようとしていることを意味します。こうして、適応を目指す環境教育と、抵抗を促進しようとする環境教育が生まれます：



14 次のリンクでご覧になれます：<http://dx.doi.org/10.1590/S1413-24782011000100008> (2018年03月20日でアクセスされました)。

一方で、気候変動を解決すべき問題と見なす教育。	もう一方で、変化を見て、気候変動が起こす不当問題を直面する教育。
この問題を強調することによって、緩和と管理のプロセスは雄弁です。問題を克服する方法として、レジリエンスが必要です。	消費パターンが気候変動を引き起こすことを認識し、システムに対するレジスタンスは中心的なもので、レジリエンスを無視しません。
それは、生命体系の階層を、最上位の男性との食物連鎖として確立し、保護を最も必要とするものである。それは明確に一義的な階級を持つピボット構造です。	DeleuzeとGuattari (1995) が提案した根本的なモデルとして、階層なしで結ばれた一連の命がある。Rhizomeモデルは、センターを持たない水平ネットワークであり、システムに対して「エスケープライン」を作成する機能を備えています。
2006年、Paul Crutzenは、現在の地質時代はホモ・サピエンスによって引き起こされた気候変動によって画定されているという理論を擁護しました。彼の理論「Anthropocene」は、ノーベル賞を受賞し、科学界で広く受け入れられています。	ブラジルでは、Vilmar Pereiraが2016年にコスモチェーナ理論に関する本を出版しました。この本では、人間中心の概念は、生命と非生命のつながりという概念によって克服されている。解釈学の影響によって、この脆弱な青い惑星をつなぐ債券には包括的次元が普遍的です。

この目に見えない気候を伝えるいくつかの試みがあります：研究と科学的調査の提案、すべてのレベル、年齢、社会的集団における訓練プロセス、科学的文化を創造しなければならないコミュニケーション、そして、この気候現象を聴衆に伝える壮大な方法に貢献してきた芸術。

世界各地のアーティストが気候変動を巡って団結しています<sup>15</sup>、短編映画、ドラマ、ドキュメンタリーの間で非常に多量の映画制作を行っています。気候変動に関する世界的なキャンペーンには、写真、絵画、絵画の展示が盛り込まれています。木製の彫刻、鳥の羽、フェルト口、さまざまな材料はまた、刺繍、ファッションや衣装と通信します。無数のフラッシュモブ、イベントでの芸術的介入とインスタレーション、Conferences of Parts (COP)にも、そして日常生活にも。目標が天気を伝えることであれば、バレエ、ダンス、劇場、そして身体もリングに手を繋ぎます。

私たちはブラジル人として生まれましたが、領土は私たちを制限しません。文化的多元主義は自然景観に付随し、気候は各地で考慮されるべきで

<sup>15</sup> <https://mimisato.blogspot.com.br/p/climate.html>

あるが、地球規模である。文化の妥当性は、包括的な公共政策の構築のための各研究、教育、または介入において我々が可能な能力（および限界）にある。人類を見ることができるとは、地球上の生命の複雑さの挑戦の役割を果たす、希望で水平線を描く政策。

Mario Cortellaは動詞「Esperar」（待つ）と「Eperançar」（希望を持つ）の違いについてインタビューをしました。Paulo Freireに触発されたCortellaは、大胆に「希望を持つ」という事は、公的政策を座って待っているだけではありません<sup>16</sup>。「希望を持つ」は「待っている」事とは異なります：それは活動的で、行動し、運動に参加し、システムを変えることができる（気候ではない）集団を構築することを意味します。



#### **BANKSY**

愛の風船を持った少女  
グラフィティ（ステンシル）

希望について語る歌を知っていますか？ Youtube  
で検索し、大声で一緒に歌いましょう！

## 参考文献

ADGER, W. Neil. Social capital, collective action, and adaptation to climate change. **Economic Geography**, v.4, n. 79, p.387-404, 2003.

BACHELARD, Gaston. **O direito de sonhar**. São Paulo: Difel, 1985.

BERKES, Fikret; COLDING, Johan; FOLKE, Carl (Eds.). **Navigating social-ecological systems - building resilience for complexity and change**. Cambridge: Cambridge University Press, 2003.

<sup>16</sup> Mário Cortellaとの取材、「ESPERANÇAR」（希望する）について：<https://youtu.be/2nysC1l0Syl>（2018年03月20日でアクセスされました）。



BERKES, Fikret; JOLLY, Dyanna. Adapting to climate change: social-ecological resilience in Canadian western Arctic community. **Conservation Ecology**, v.5, n.2, 2001.

CRUTZEN, Paul. The Anthropocene: the current human-dominated geological era. Pontifical Academy of Sciences, **Acta 18**, Vatican City, 199-293, 2006 Disponível em: <http://www.casinapioiv.va/content/dam/accademia/pdf/acta18/acta18-crutzen.pdf>. Acesso em 20 mar. 2018.

DELEUZE, Gilles; GUATTARI Félix. **Mil Platôs: capitalismo e esquizofrenia**. Rio de Janeiro: Ed 34, vols. I, II, III e IV, 1995.

GUIMARÃES, Manoel Luiz Salgado. História e natureza em von Martius: esquadrinhando o Brasil para construir a nação. **História, Ciências, Saúde - Manguinhos**, v. VII, n. 2, p. 389-410, jul./out. 2000. Disponível em: <http://dx.doi.org/10.1590/S0104-59702000000300008>. Acesso em 07 mar. 2018.

JACOBI, Pedro et al. Mudanças climáticas globais: a resposta da educação. **Revista Brasileira de Educação**, v. 16, n. 46, 135-148, 2011. Disponível em: <http://dx.doi.org/10.1590/S1413-24782011000100008>. Acesso em 20 mar. 2018.

MIGLIEVICH-RIBEIRO, Adélia Maria. O Povo Brasileiro de Darcy Ribeiro: crítica ou reforço à noção de “caráter nacional brasileiro”? In: PLANCHEREL, Alice Anabuki (org.). **Memória & Ciências Sociais**. Maceió: EDUFAL, 2005. p. 9-25.

MILANEZ, Bruno; FONSECA, Igor. Justiça climática e eventos climáticos extremos: uma análise da percepção social no Brasil. **Terceiro incluído**, v.1, n.2, 82-100, 2011.

NOBRE, Carlos. Mudanças climáticas e o Brasil – contextualização. **Parcerias estratégicas**. Brasília: CGEE-MCT, v.1, n.27, 7-18, 2008.

OLIVEIRA, Jane Souto de. **Brasil mostra a tua cara: imagens da população brasileira nos censos demográficos de 1872 a 2000**. Rio de Janeiro: IBGE, 2003. Disponível em: <https://biblioteca.ibge.gov.br/visualizacao/livros/liv2434.pdf>. Acesso em 07 mar. 2018.

ORTIZ, Renato. **Cultura brasileira e identidade nacional**. São Paulo: Brasiliense, 2003.

\_\_\_\_\_. Imagens do Brasil. **Revista Sociedade e Estado**, v. 28, n. 3, p. 609-633, set./dez. 2013. Disponível em: <http://dx.doi.org/10.1590/S0102-69922013000300008>. Acesso em 07 mar. 2018.

PEREIRA, Vilmar. **Ecologia Cosmocena: a redefinição do espaço humano no cosmos**. Juiz de Fora: Garcia Edizione, 2016.

QUEIROZ, Maria Isaura Pereira de. Identidade cultural, identidade nacional no Brasil. **Tempo Social**, v. 1, n. 1, p. 29-46, 1. sem. 1989. Disponível em: <http://dx.doi.org/10.1590/ts.v1i1.8331>. Acesso em: 07 mar. 2018.

RAMOS, Jair de Souza; MAIO, Marcos Chor. Entre a riqueza natural, a pobreza humana e os imperativos da civilização, inventa-se a investigação do povo brasileiro. In: MAIO, Marcos Chor; SANTOS, Ricardo Ventura. **Raça como questão: história, ciência e identidades no Brasil**. Rio de Janeiro: Ed. FIOCRUZ, 2010. p. 25-49.

RIBEIRO, Darcy. **O Povo Brasileiro: a formação e o sentido do Brasil**. São Paulo: Companhia das Letras, 1995.

SATO, Michèle; QUADROS, Imara. Texto e imagem da educação ambiental. In: SATO, M; SILVA, R.; GOMES, G. (Coords.) **Escola, comunidade e educação ambiental**. Cuiabá: Seduc & Print Ed., 2013, p.43-57.

-----; SILVA, Regina; JABER-SILVA, Michelle. Between the remnants of colonialism and the insurgence of self-narrative in constructing participatory social maps: towards a land education methodology. **Environmental Education Research**, v. 20, n. 1, 102-114, 2014.

SATO, Michèle (Coord.) **Rede internacional de pesquisadores em educação ambiental e justiça climática** (REAJA). Projeto submetido e aprovado pela Fapemat, edital 2016. Cuiabá: Fapemat, 2016 (mimeo).

SCHAMA, Simon. **Paisagem e memória**. São Paulo: Cia. das Letras, 1996.



**UNIVERSIDADE FEDERAL  
DE MATO GROSSO**

